

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 4 区分

【発行日】平成20年9月25日(2008.9.25)

【公開番号】特開2005-229732(P2005-229732A)

【公開日】平成17年8月25日(2005.8.25)

【年通号数】公開・登録公報2005-033

【出願番号】特願2004-36117(P2004-36117)

【国際特許分類】

H 0 2 J 9/00 (2006.01)

H 0 2 J 3/00 (2006.01)

H 0 2 M 7/12 (2006.01)

【F I】

H 0 2 J 9/00 P

H 0 2 J 3/00 D

H 0 2 M 7/12 G

【手続補正書】

【提出日】平成20年8月12日(2008.8.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

電源のしゅん断や停電が生じた場合、無停電電源装置に接続されているコンピュータ等の機器はそれらの影響を受けることなく電源の供給を継続して受けることができるとされている。しかし、無停電電源装置は高価なため、電源の供給が瞬間でも停止してしまうと問題が生じるようなコンピュータや医療機器のように限られた装置のみに用いられている。しかも、その場合であっても、所定の保持時間を過ぎると電源を供給することができなくなる。家庭電化装置のようなエアコン、照明装置、空調設備等のように停電等によって電源が途絶えることがあったとしても大きな問題とはならない装置の場合には、しゅん断や停電によって機器のスイッチが遮断された場合、電源が復旧した時に手動で個々にスイッチを投入して電源の供給を行うようにしている。また、人が常駐していなくさまざまな観測機器が置かれている観測所のような場所では、重要な観測機器には無停電電源装置が接続されていて停電時でも観測作業が中断することのないようになっているが、動作環境温度を一定に保つためにそこに設置されているエアコンや照明装置は停電が生じると電源がOFFになったままになる。これを回復するために、人間がそのような観測所まで出向いて手動で個々の装置の電源を入れる作業を行っている。そのような作業は煩雑であったり、または、不可能に近い場合さえある。

【特許文献 1】特開平 5 - 1 3 4 7 0 2 号 特許文献 1 には、停電後の復電を検出する復電検出回路と停電時に状態を自己捕縛するリレー回路とを備え、停電後の復電時に、復電検出回路が、リレー回路の自己捕縛状態を解除するようにした設備制御装置が開示されている。